



平成29年12月22日(金)

藤 棚

第346号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

江澤繁先生の思い出

校長 小川義男

年の瀬である。高校三年生は戦いの真っ最中。その他の諸君も、年の瀬には、それぞれ新たな感慨があろう。

ところで、タイトルの「江澤先生」については、意味不明と驚かれる人も多かろう。校長と言えども、公の「藤棚」に、私的感懐を述べることは許されない。それを分かりつつ、あえて「私的感懐」を述べるのは、それが、中高の生徒諸君、保護者の皆様にも、お役に立つと思うからである。

江澤先生は、私の母校、北海道教育大学札幌分校の助教授であった。私は、北海道学連の委員長を、唐牛健太郎君に譲り、卒業準備に追われている頃であった。卒業論文の作成に熱中している私に、江澤先生は、研究室の鍵を任せて下さった。おかげで私は、恵まれた環境の中で、卒論作成に励むことができた。私立大学の、多すぎる学生数では、考えられないことである。

江澤先生は、毎日11時頃に研究室にお出でになり、12時になると、必ず、大学生協の食堂に電話を掛けて、カレーライス二つを注文なさった。ひとつは私の分である。ひと皿50円であった。

愚かな私は、「学者は金持ち」くらいに考えていた。しかし、今なら、当時の大学助教授が、豊かではなかったことを知っている。毎日100円のカレーライス代は、先生に取り、大変な出費だっただろう。しかし、今となって、その恩義に報いる方法はない。まあ、次の世代の生徒諸君に真心を尽くすということで、泉下の先生に感謝の誠を捧げる以外に道がない。私も、「貧しい生徒に昼飯を食べさせたい」と思うが、みんな豊かな家庭の子供ばかりだ。今もその機会を得ずに、日々を過ごしている。

江澤先生は、東京帝国大学在学中に、陸軍幹部候補生に、おなりになった。在学中、随分、下士官に虐められたようである。下級生を庇って、先生ご自身も、殴られることが、しばしばであった。口数の少ない、美男子の先生であったが、私を特に信頼して下さり、色々な話を聞かせて下さった。先生に、あのように可愛がられた経験は、ほかにない。

先生の後輩に当たる生徒を、良く殴り、幹部候補生であった先生をも殴る下士官がいた。穏やかな江澤先生は、下級生と一緒に殴られていた。

幹部候補生には、特別に砂糖が支給された。江澤先生は、そのすべてを、汁粉などに変えて、部下に食べさせたそうである。穏やかで美男、物静かな学者であったが、ある時、思わぬ話を私に聞かせて下さった。

「私は任官したとき、(陸軍少尉になったとき)、正門の前で待ってましてね。その下士官に、「待て」を掛けました。飛行手袋を履いたまま、二発殴りました。」「彼は、抵抗しなかったんですか。」と私。「しませんよ。上官の命令は朕の命令なんですよ。」と先生。江澤先生は、そういう方であった。

私が残念で申し訳ないのは、卒業後私が、江澤先生に、一本の礼状も出さずに仕舞ったことである。先生は、その後も、私の個人的動向、政治的動向に関心をお持ちだったことと思う。

その後、社会主義世界体制は、世界的規模で、音を立てて崩壊した。その事は、私にも、私の同世代にも大きな影響を及ぼした。江澤先生は、あの思想的大変動の時代を、どのように生きられたのであろうか。

学歴から考えて、どこの大学で、どのように昇進なさろうと、人が驚かないような偉大な方であった。しかし、その後の江澤先生の御消息が分からぬままに歳月は流れ、私自身も老境を迎えた。風の便りでは、精神を傷められ、必ずしもお幸せとは言えぬ晩年を過ごされたとも聞く。

振り返って、私ほど偉大な先輩に愛され、その恩寵にひたった人間は少ないと思う。私は、その恩義に報いられぬままに時を過ごした。申し訳ないことである。その恩義を、私は、次の世代にお返しして行かねばならないのだが、それさえも十分にできそうにない。歳が暮れようとしているが、いつもいつも悔いを残して迎える大晦日、ひそかに先生の霊にお許しを願いつつ、除夜の鐘を聴きたいと思う。

詩集 歌集に親しんで欲しい

高校一年の冬、トロッコにセメントを積むアルバイトをして、少しの金が手に入った。北海道芦別市の炭砒での話である。

その金で、啄木歌集を買った。啄木の歌は素晴らしくて、月光の下で、読んだ記憶がある。朗唱している内に、結局、ほとんど全部を覚えてしまった。啄木の素晴らしさを、生徒諸君にも知って欲しい。

どういふものか、私は、土井晩翠の詩集「天地有情」の初版本を持っていた。今は手元にないが、古書店で見つけたら、相当高いものではないかと思う。韻律の美しい晩翠の詩は、今の生徒諸君にも愛されるのではないか。

若山牧水歌集 島崎藤村詩集なども素晴らしい。

若い諸君も蔵書を持つと良い。背表紙を見ているだけで、文学を鳥瞰できるようになる。若い諸君ほど、蔵書を蓄えるのがよいと私は思う。石川啄木の歌に、「売り売りにて 手垢汚きドイツ語の 辞書のみ残る夏の末かな」というのがあるが、盛岡中学を中退しただけの啄木が、ドイツ語も独学していたこと、また、その生活が苦しかったことが分かって、独特の親しみが湧いてくる。